

新入生春休み課題【歴史総合】 第二次世界大戦と戦後秩序の形成 テスト範囲

1939年、ナチス・ドイツが(ポーランド)へ侵攻したことをきっかけに、イギリスとフランスがドイツに宣戦布告し、第二次世界大戦が始まった。ドイツは電撃戦によって短期間で(フランス)をはじめヨーロッパの大部分を占領し、(イギリス)も潜水艦による海上封鎖で深刻な物資不足に直面した。各国では国家総力戦体制がとられ、食料や生活物資は配給制となり、国民生活は厳しく統制された。

アジアでは、日本がフランス領インドシナへ進駐したことに対し、アメリカが(石油輸出)を禁止するなど経済制裁を強化した。さらにアメリカは「(ハル・ノート)」で日本軍の撤退などを要求したが、日本はこれを拒否し、1941年12月に(真珠湾)攻撃とマレー半島上陸作戦を行い、アメリカ・イギリスと開戦した。こうして戦争は世界規模へ拡大した。

連合国側は1941年の(大西洋憲章)で、領土不拡大や民族自決、恐怖と欠乏からの解放を戦争目的として掲げ、アメリカ・イギリス・ソ連・中国などが協力体制を形成した。一方、日本は「(大東亜共栄圏)」を掲げ、欧米の植民地支配からアジアを解放すると主張したが、実際には資源確保を目的とした側面も強く、占領地では抵抗運動も起こった。

戦局は1942年の(ミッドウェー海戦)を境に連合国が優勢となる。日本では兵力不足を補うため学徒出陣が行われ、本土空襲や沖縄戦によって被害が拡大した。1945年、(アメリカ・イギリス・中国)は(ポツダム宣言)で日本に無条件降伏を要求したが、日本は当初これを受諾しなかった。その後、(広島・長崎)への原子爆弾投下、(ソ連)の対日参戦を経て、日本は宣言を受諾し、1945年8月15日に戦争は終結した。日本では約310万人が死亡した。

敗戦後、日本は連合国軍(主にアメリカ)の占領下に置かれた。物資不足の中で闇市が各地に形成され、人々の生活を支える役割を果たした。

戦争中から連合国は戦後処理と国際秩序の構想を進めていた。1943年の(カイロ会談)では日本の無条件降伏と領土返還方針が確認され、1945年の(ヤルタ会談)ではドイツ分割占領や(国際連合)設立の枠組みが決定された。同年6月の(サンフランシスコ会議)で国連憲章が採択され、1945年10月に(国際連合)が発足した。国際連合は世界平和の維持に加え、人権保障を重視し、後に(世界人権宣言)を採択して普遍的な人権の理念を示した。

しかし戦後、アメリカとソ連の対立が深まり、世界は(資本主義)陣営と(社会主義)陣営に分かれる東西(冷戦)へと移行した。日本も分割占領案が検討されたが、最終的にはアメリカによる単独占領となった。こうして第二次世界大戦は新しい国際秩序を生み出す一方、冷戦という新たな対立構造の出発点ともなった。